

勿凝学問 255

2つの国民

日本人の少数派と多数派

2009年10月25日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

「座して死を待つのみ」——今月のはじめ、医師たちのある勉強会で、「政権交代後、思ったのとはどうも様子が違う。今後、我々はどうすればいいのでしょうか？」と問われた時に、僕が答えた言葉が、医療界で流行っているようである。そして察するに、医師の集まりに「権丈は呼ぶな」との話も飛び交っているんじゃないかな（笑）。だって、僕は最近、次のような話をよくするから……。

医師、あるいはひろく医療関係者ってのは、ほんとうによく研究会を開いたり、シンポジウムを開催したりして、日曜・祭日を返上して勉強している。だけど、これほどの活動をしながら、政治的にはまったく報われない人たちってのも珍しいんじゃないですかね。なぜだと思います？

かつてケインズは、『一般理論』の中で、「人々が月を欲するために失業が発生する」と言っていて、その意図することは、はなっから買うこともできないものに恋い焦がれて現在の消費を控えているから、有効需要が不足して不完全雇用に伴い失業が発生するということなのですけど、なぜ、みなさんの活動が効を奏しないのか？

何十年間も、はなっから財源がないところに財源を求めて活動しているからですよ。まあ、感心するほどに、ここに財源がある、あそこに財源があると、次から次に盛り上がっている。本当は、国民負担率を高めて再分配政策としての医療政策を充実させることを求める活動以外、医療の機能強化を行うことはできないのに、みなさんは問題の本質をすぐに忘れて、わたくしからみると全くムダな活動、それのみか、自分で自分のクビを絞めるような政治活動ばかりやっている。みなさんの何十年間のご活動のおかげで、医療費を増やすためには混合診療解禁くらいしか、今やこの国には選択の余地がなくなってきましたね。ご苦労様です、ハイ（笑）。

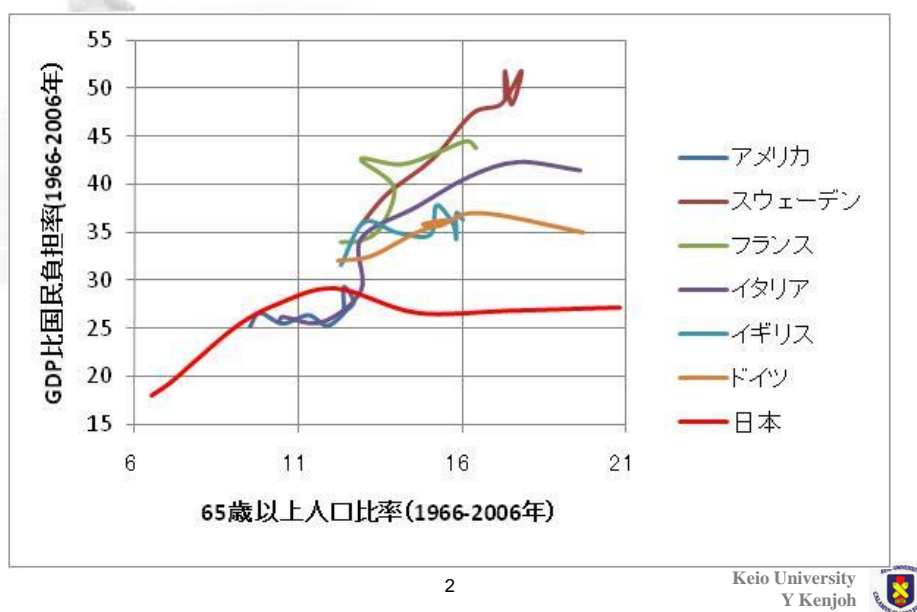
だいたいウケが悪い。腹を立てているひともいると思う。でも、そんなことには僕は関心がない。

でっ、昨日は、[医療法人経営セミナー](#)¹で、小松秀樹先生の講演の中に「2つの立場」という言葉が出ており、その言葉にインスピレーションを得た僕は、急遽、パワーポイント上の演題を変更して、「2つの国民——日本人の少数派と多数派」という話をした。

2つの国民とは、日本の財政事情などをよく知っており、かつ日本の社会保障に絶えず強い抑制圧力がかかるのも、はなっから国民負担率が低く、しかもその上財政支出に占める国債費というものが脳腫瘍のように肥大化していく中で、他の脳細胞を圧迫しているのに似た力学が働いていることを知っている日本人と、それを知らない日本人のことである。

ところが、前者の、僕がしばしば「ポピュリズムと闘う静かなる革命戦士」と呼んでいる、どうすれば日本の国民負担率を上げることができるのかを思案し続けている日本人は常に少数派であり、後者の、日本が抱える根本的な問題などまったく知らない日本人が絶えず多数派を占めてきた。だから、民主主義という多数決の下で運営されてきた日本の財政は、次のような経過を辿り、社会保障は必要とする成長を許されずにボロボロになり、他方、教育をはじめとした他の公共サービスは疲弊の一途を辿ってきたのである。そして、政治の動きを傍観しながら感じることは、これまでの少数派・多数派逆転の兆しがまったく見えてこないということである。

日本の社会保障が抱える最大の問題



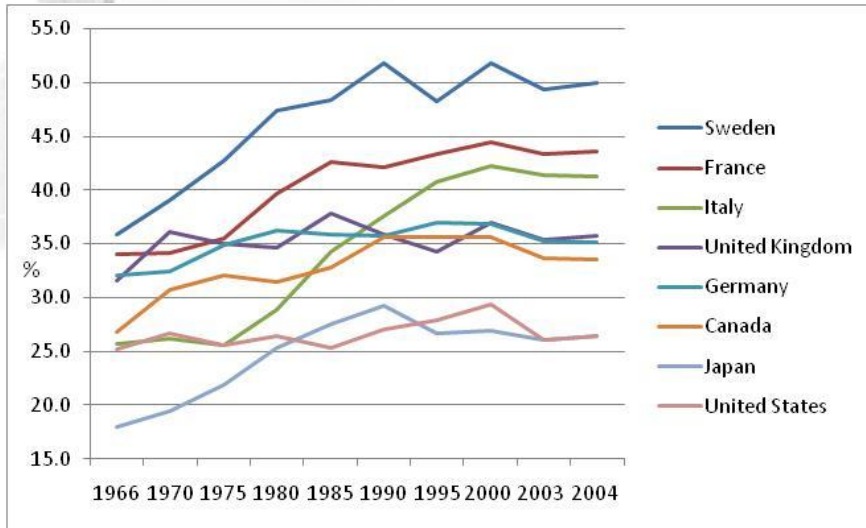
2

Keio University
Y Kenjoh

¹ 昨年の医療法人経営セミナー。

勿凝学問 185 [医療経営と消費税改革——消費税に対する自民・民主の具体的方針](#)

主要国のGDP比国民負担率 (3年移動平均)

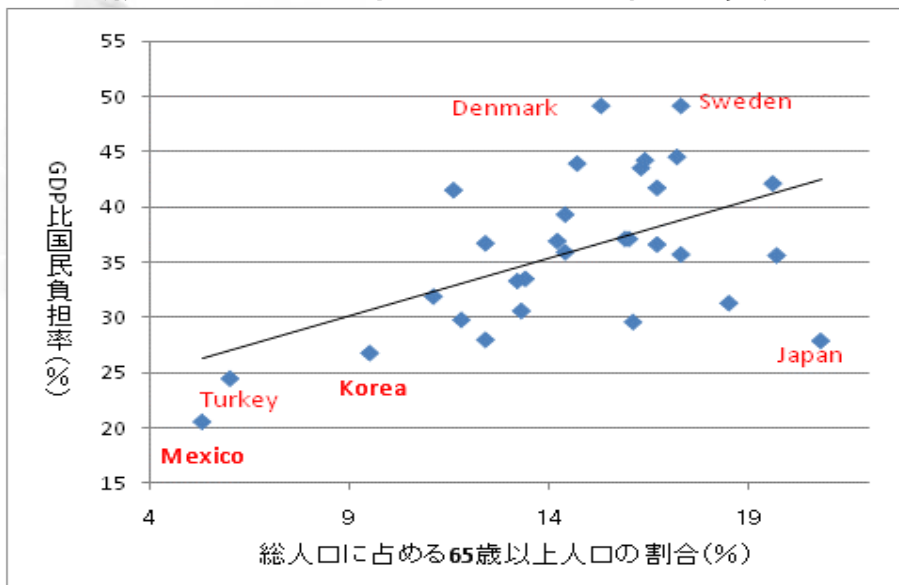


18

Keio University
Y Kenjoh



65歳以上人口割合とGDP比国民負担率

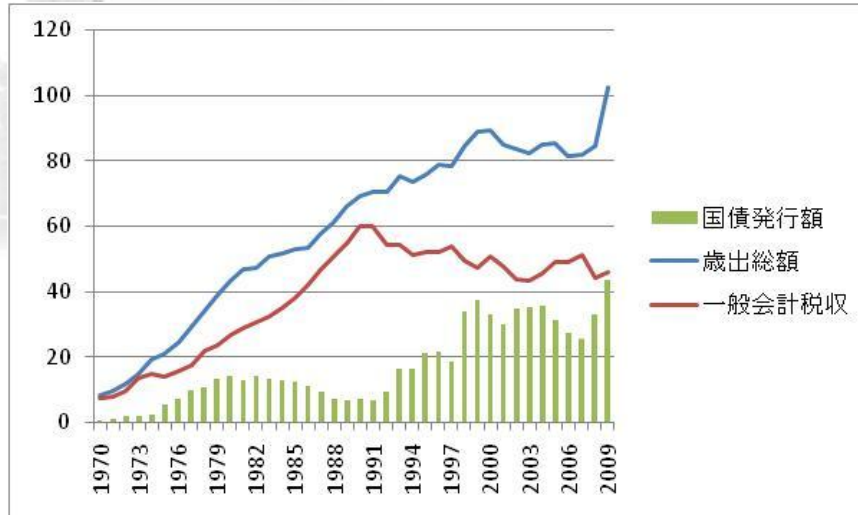


14

Keio University
Y Kenjoh



一般会計における歳入歳出の推移 かつて「ワニの口」と呼ばれたが、今は？



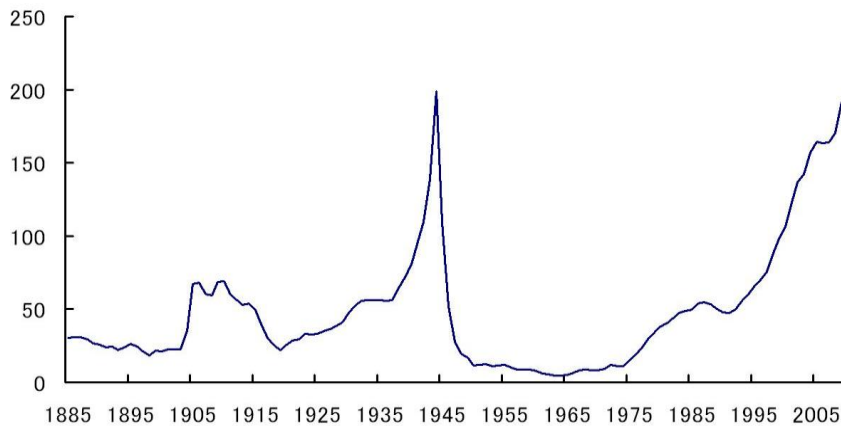
2009年度は補正後予算、他は決算 2

Keio University
Y Kenjoh



財政は戦時体制

政府債務(対GDP比, %)



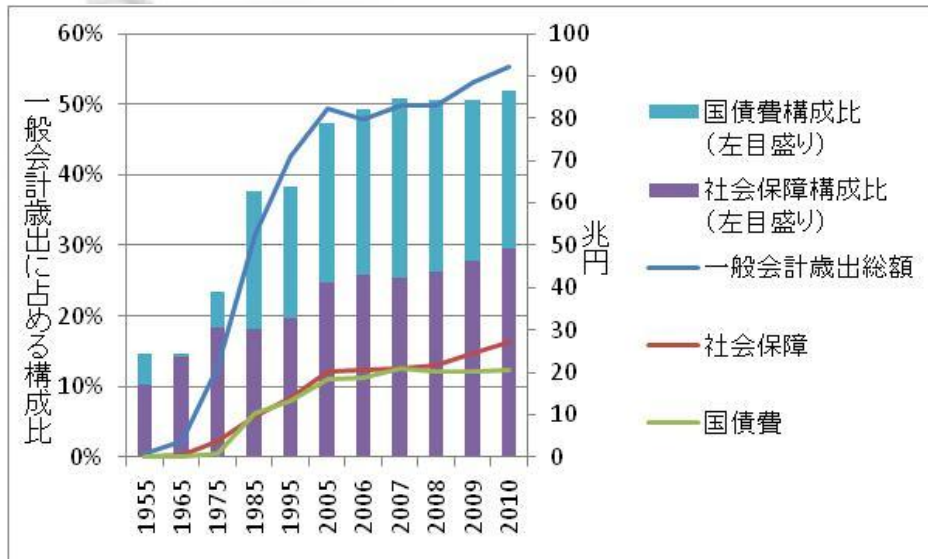
東京大学岩本康志氏のブログ「景気との戦争」

3

Keio University
Y Kenjoh



一般会計歳出に占める国債費等の割合の推移



40

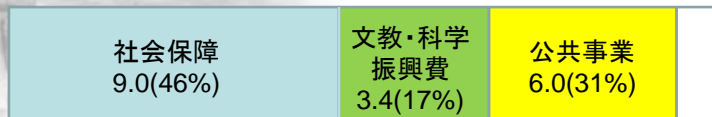
Keio University
Y Kenjoh



過去10年で増えたのは社会保障費

国から地方に向けた補助金等の全体像
(一般会計+特別会計)

1999年度 19.6兆円



2009年度 19.5兆円



その他
1.2(6%)

文教・科学振興費
2.0(10%)

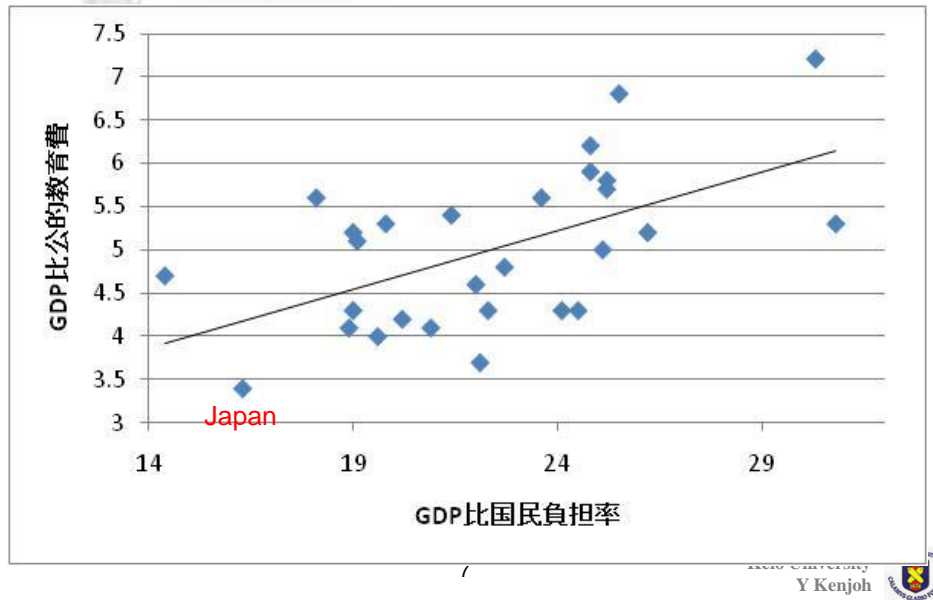
その他
0.8(4%)

4

Keio University
Y Kenjoh



教育は相当に悲惨



せめて、医師というインテリであるはずの層くらいは、前者の日本人に属する人たちなのではないかと期待していたのであるが、それはどうも見込み違いだったということが、ようやく僕にも分かってきた。

政権交代とか医師会の会長選とか、医療の機能強化にとってはどうでも良いことなのである。昨日も話をしたように、過去に何が起こっていたのか、今、何が起こっているのかは国民負担率をみれば説明がつくのであり、将来に何が起こるのかは国民負担率に関する政府の方針を参考にすれば予測できる。国民負担率が上がらない限り、どの政党が政権につこうが、誰が医師会の会長になろうが、何も変わりようがない。長嶋さんには申し訳ないけど、大衆の期待を一身に背負うミスターと呼ばれるひとが大臣になろうが、同じである——否、本当にムダがあると信じ切っていて、その矛先が医療や介護に向けられるおそれがありすぎるほどにあるために事態はかえって厄介でもある。

医療の機能強化を図りたいのであれば、現段階の政治レベルでは、選挙の際に国民負担率を上げると言っているのかどうかをみるだけで十分なのであり、選挙の前に、国民負担率を上げないと言っておきながら、日本人の多数派を騙すために最大公約数的公約を並べ立てたマニフェストが無理に実現されると、低負担高福祉の財政運営となるだけで、それでは医療どころか国が減じる。

「僕の話が分かったら少数派になるだけです (笑)」——昨日のシンポジウムでも、そう言って帰ってきた。座して死を待つのみでは耐えられない、だから、国会議員を擁立するというようなそんな莫大なエネルギーを費やすのであれば、そのエネルギーを国民負担

率の引き上げを多数派たる大衆に説得する運動に向けた方がましなんだけど、どうせそうした考えは少数派の考えでしかあるまいよ。マニフェスト選挙の下、党執行部の権力が強大化し、ますます多くの国会議員が採決に賛成票を投ずる役割しか与えられなくなっていく時代に、国会議員をひとりふたり送り込んでなにをどうしたいんだろうね。不思議な人たちである。

シンポジウム前夜の懇親会、欠席しておいて良かった。もし、国会議員擁立を決議するその場にいたら、翌日の講演で、僕は何を言っていたかわからない（笑）。

おまけ——僕の特技の一つを披露

昨日のセミナーで、茨城県医師会理事、鈴木邦彦先生と会う。

「へえ、中医協の委員に決まったんだ。現政権に、両足だけじゃなく、クビまでつかりましたねえ（笑）」。

鈴木先生に頂いたV巻への[書評](#)

大阪から戻る新幹線の中、日医代議員会のために東京に向かう京都医師会会長、森洋一先生、副会長、安達秀樹先生にバッタリ会う。

「へえ、安達先生、中医協の委員に決まったんですね。週に2回、東京通いですかあ。

くれぐれも、くれぐれも、ご自愛を（笑）」。

森先生と一緒にだった10月6日の[シンポジウム](#)

でっ、なにが僕の特技かって？

不思議なタイミングで不思議なひとに会ってしまうというのが僕の特技の一つ。

帰宅後、「今日内定が出た中医協の委員ふたりに、ふたりとも今日会ってしまったよ。ひとりにはシンポジウムで一緒に、もうひとりには新幹線の中。電車の中で話をしてたら、京都出身の〇〇大臣から「おめでとうございます」って電話がかかってきてた。公表はそんなくらいのタイミングだったんだろうな。鈴木先生と安達先生は、どうも、互いに互いを知らないみたいだけど、今日、このふたりに会ったのは、世の中、俺しかいないだろおなあ・・・」と妻に言っても、そのくらいのことはこれまでも良くあったことだよねっと、素っ気ない感想。。。